

題：インターネット社会における新聞・雑誌の必要性

名前：

インターネットの普及により、パソコンや携帯電話などを通して、様々な情報を好きな時に好きな場所で手に入れることができるようになった。これをもって新聞や雑誌といった紙媒体は不要になったという人がいるが、果たしてそうであらうか？

たしかにインターネットの利便性は大きい。出かけた先で新聞を読むとすると、あの紙の束はかさばるし、なにより広げると邪魔でしうがない。雑誌にしたってポケットに入りはしないし、片手で持ちながら同じ手でページをめくることはできないが、携帯電話ではそれができる。

しかし、紙媒体には紙媒体の利点がある。それは比較的保存がきくということである。インターネット上の情報は、ただウェブページを見るだけでは内容が見た側に保存されない。わざわざ保存したのだから、もう一度見る時には情報を提供する側に再びアクセスしなければならない。これは見る側からす

ればたま、た新聞や雑誌を捨てる手間が省けるという時点で利点にもなり得る。しかし、情報を提供する側のことも考えると話は違ってくる。インターネット上ではリンク切れというものが存在する。基本的にはその情報の提供が打ち切られたことを意味するこの現象は、提供側の記憶容量が有限であるからには、日々新しい情報が追加されるニュースサイトなどでは必ず起こる。こうして情報は失われってしまう。一方、紙媒体ではこのような現象は防がれている。図書館などが収集し、一般に公開しているのである。インターネットにはこの様なシステムが確立されていない。

インターネットでは情報発信が容易であり、それを収集することは困難である。この困難が克服され、古い情報を取り出せるほどの歴史を重ねた時に、紙媒体の優位は失われるのかもしれない。